



一般社団法人 tenten
団体概要

はじめに

友達もいない、知り合いもない、土地勘もない。知らない土地に住むのは楽しみでもありますが、不安も募ります。私は石川県出身。国家公務員として東京で就職し、その後結婚を機に退職し、福島県へ転入したのが平成19年。夫の仕事の関係で県内転勤をこれまで4回経験し、一番初めに住んだのが南会津町でした。転入したばかりの私の状況を表す言葉は「孤独」と「焦り」。

誰一人として知り合いがおらず孤独そのものでした。

ペーパードライバーだった私は一人で遠出する勇気もなく、毎日家とスーパーの往復。話す相手は夫だけという日々が続きました。

また、次にいつ転勤になるか分からない状況では定職に就くことができず、働きたい、何かをやりたいという思いを実現することができず、これからどうしたらいいんだろうと、とにかく焦っていました。

しかし、あるご夫婦との出会いをきっかけに、地域の方との交流の機会を作っていただき、夫を介さない自分の知り合いができ、居場所ができたことで、私にとって南会津町は特別な場所となりました、南会津町を離れて10年以上たった今でも交流は続いています。

福島には私以外にも、結婚やパートナーの転勤で転入された女性がたくさんいます。

そういった方に、私が南会津で出会ったご夫婦のような地域と架け橋となるサポートがあれば、福島を好きになれる女性が増えるはずですよ。

また転入女性の中には、高いスキルや経歴、働きたいという意欲があるにも関わらず、一旦キャリアをリセットしたことや子育てなどの理由で、その想いを実現できていない方もたくさんいます。

一億総活躍、女性活躍が謳われる中、そういった女性達でも活躍できる多様な働き方の選択肢を増やすことが必要だと切に感じています。

福島で地域や社会と繋がり、自分らしくいきいきと生活する。そんな女性が増えれば間違いなく福島は元気になります。転入女性自身には「福島に来てよかった」と、地域の人からは「あの人が福島に来てくれて良かった」という言葉がたくさん聞こえる福島となることを願い、今はまだ眠っている女性達の力を引き出し、地域とwin-winの関係を構築していきます。

代表理事 藤本 菜月

tenten という名前に込めた想い



福島に転入したばかりのあの頃の私にとって「転(ten)入」「転(ten)勤」というワードはネガティブワードでした。それらによって感じた孤独・不安・焦り。しかし、その辛い時間を過ごし、経験したからこそ同じ境遇の女性たちの課題が見えてきました。

福島に転入して10年が経過し、地域とのつながりも徐々にできてきた今、今の私ならそういった女性達が暮らしやすい福島を作れるのではないかの思いを持って始めた活動です。

活動を始めて、たくさんの女性達の笑顔を見ることができ、またそういった女性達のパワーも感じることで、私にとって「転入」「転勤」はポジティブワードに変わりました。

『災い「転(ten)」じて福となす』。そんな活動に育てていきたいです。

Vision

女性が地域や社会とつながり、いきいきと自分らしく暮らせる社会へ

Mission

転入女性の悩みを解消しつつ、その強みを活かして、地域とwin-winの関係を構築する

事業概要



① 仲間や地域とつながるキッカケづくり

転入して知り合いがない女性や地域の情報を入手し辛い女性達を対象に、仲間づくりや情報交換をする場、地域を知る機会を作っています。私たちはファシリテーションで入り、参加者が何を求めてその場にいられたのかを引き出し、参加者の気持ちに共感し、必要な情報を提供するようにしています。また、参加者同士の繋がりを作りやすい環境も作るように心がけています。



転入女性同士の仲間づくりと情報交換を目的にした座談会。

月に1回開催し、毎回6～10名を募集。インターネットに掲載されていないような病院・幼稚園/保育園/学童・塾・グルメ情報などの地域情報を交換。似た境遇の参加者がそれぞれ持つ情報や経験をシェアすることで、生活や仕事における悩みの解決の糸口が見つかる場になっています。参加者のなかには、「ママ」や「親」という立場ではなく「自分」としてつながる場がほしい」というニーズも多く、お子様連れNGの「大人会」も開催。



福島の素材を使ったワークショップを3回連続同じメンバーで実施することで、楽しく地域のことを学びながら仲間づくりを行います。

- ・福島の花桃を使ったハーバリウム作り
- ・福島の果物で起こした酵母でパン作り
- ・二本松の上川崎和紙を使って小箱作り etc



転入女性に住んでいる地域のコアな魅力を知ってもらうための街歩きツアー。

一人では行きづらいけどみんなと一緒にノックできるお店を紹介。地域と繋がることで、その地域に自分の居場所ができ、より地域に愛着を持った暮らしをしてもらうきっかけを作ります。そこから地域活動に参加したり、地域で買い物してくれる人が増えることで地域活性にも繋がれたらと考えています。

※「まちとつながる旅」は全国の転勤族を支援する「転勤ノオト」のプログラムです。tentenでは転勤ノオトの協力を得て実施いたします。



2020年11月に福島市県庁通り商店街を中心としたまちとつながる旅を実施

行政との連携例

- ✓ **tenten cafeの実施依頼** (適切な情報提供サポーターの選定、参加者募集、当日運営、アンケート実施、開催報告作成、SNS発信)
- ✓ **まちとつながる旅の実施依頼** (転入女性目線でのツアー工程作成、参加者募集、当日運営、アンケート実施、開催報告作成、SNS発信)

tenten cafe@東京



依頼元: 福島県地域振興課

福島県最大の移住フェア「くらし&しごとフェア」にて移住希望の女性向けの座談会として実施。情報提供サポーターとして福島県在住経験があり現在は首都圏在住のtentenメンバー2名を選定。首都圏と福島の子育て環境や教育環境の違いをアドバイスすることができました。

tenten cafe@南会津



依頼元: 福島県南会津地方振興局

南会津に転入した女性を対象に座談会を実施。情報提供サポーターとして、自身も会津若松から南会津に転入し、街中でカフェを営んでいる女性(地域のキーパーソン)を選定。座談会後につながりができ、カフェを訪れてくれるようになったとのこと。

企業との連携例

- ✓ **tenten cafeの場の提供** (場の広報、転入女性10名程度の集客につながる)
- ✓ **tenten cafeのお茶菓子の提供** (商品の宣伝、モニター調査)

tenten cafe@積水ハウス展示場



依頼元: 積水ハウス

積水ハウスの住宅展示場にてtenten cafeを実施し、参加者に展示場をみてもらう機会を創出。積水ハウスのPRや追跡営業のないアンケート調査を実施する時間を設けました。積水ハウススタッフと営業ではない会話をすることにより親近感が湧き、実際に家の相談に移る方も。

tenten cafe

@パルシステム福島郡山センター



依頼元: パルシステム福島

地域との連携活動を強化したい、調理室や和室・託児室がそろったセンターをもっと地域の方に活用してもらいたいとの依頼でtenten cafeを実施。場とともに、お茶菓子としてパルシステムの商品を提供してもらい、パルシステムを知ってもらうきっかけづくりにします。

② 仕事づくり

地域資源を活用したオリジナル物産ブランドbel*fonteの展開

他県の方に紹介したくなるような福島の地域資源を活用した商品開発を、よそ目の線、女性目線、母親目線で行っています。商品の作り手には転勤族や子育て中の方など定職に就き辛い方になっていただき、そういった方が社会と繋がるきっかけを作っています。

bel*fonte fukushima

会津木綿、尾瀬の鹿革など福島の地域資源を活用していることを全面的にPRしたアクセサリーや雑貨のお土産ブランドを展開



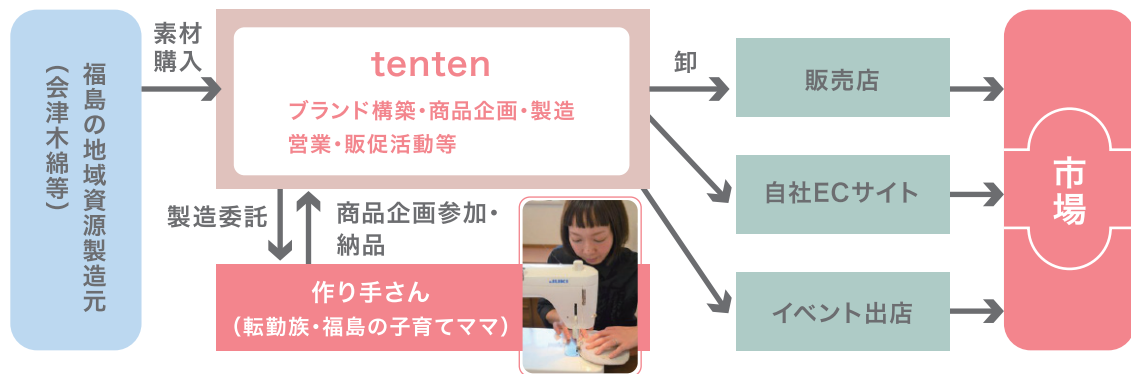
- ターゲット
福島への観光客
- 販売場所
福島県内の観光施設

ふくしまさし子

東北ふくしまの冬の手仕事「刺し子」。刺し子はとても時間がかかるもの。その時間、女性が家族を想い一針一針刺していく、素朴さと温かさが詰まった手仕事をブランド化。



- ターゲット
全国の手仕事好きな女性
- 販売場所
福島県内外の雑貨店



働き方の選択肢の一つとして、転勤族や子育て中のママなど定職に就きづらい方に作り手として携わってもらう仕組みを構築しています。

bel * fonte

「bel*fonte」というブランド名に込められた思い

南会津で生まれたブランドのためイタリア語の「bel(美しい)」と「fonte(水源)」を組み合わせ、南会津の美しい雪解け水が湧きだすように、地方に新しいパワーが湧き出るようにとの思いを込めています。

② 仕事づくり

転入女性のスキルを生かした仕事の受託(tentenお仕事部)

スキルと職歴、様々な経験、そして何より働きたいと意欲を持った転入女性でチームを組み、それぞれのスキルを活かした仕事をプロジェクトベースでtentenが窓口となり受託。就職という形にとられない働き方の選択肢の一つを提供しています。

ライティング

Webライター講座を受講し、tentenで5記事以上執筆経験を積んだtentenライターがライティングします。ご希望により編集作業も行います。

- 例えば…
- 主婦目線、女性目線、ヨソモノ目線を生かした記事やコラム作成
 - イベントレポート作成
 - モニター体験記事作成
 - SNS運用(主婦層に響く情報発信)

実績

- 福島民報情報ナビTimeでのコラム「転入女性のtentenだより」掲載(月1回)
- アポロガス広報誌「せっかくどーも」コラム掲載(隔月担当)
- 福島県移住ポータルサイト「エフステ」移住者インタビュー記事作成
- ローカルWebメディア「福島経済新聞」市民記者



デザイン

デザイン業界で勤務経験のある転入女性が名刺やチラシのデザインを行います。オンラインorリアルで打合せを行い、想いを聞き取ったうえでデザインをご提案いたします。必要に応じて印刷業務も代行します。

実績

- 一般社団法人Bridge for Fukushima 名刺デザイン
- 株式会社RonBan 名刺デザイン
- 横山行政書士事務所 チラシデザイン
- 縁結び家系図や チラシデザイン

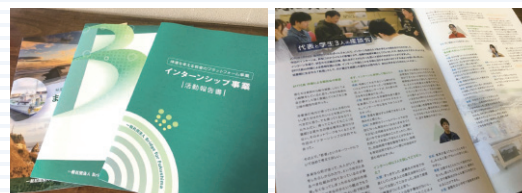


ライティング+デザイン

NPO等の活動報告書や団体概要パンフレットなどの作成に、tentenライターとデザインメンバーがチームを組んで取り組みます。打合せを行い、tentenライターが構成考案、原稿作成を担当、デザインメンバーが見やすいデザインに仕上げます。必要に応じて印刷業務も代行します。

実績

- 一般社団法人Bridge for Fukushima 社会課題解決プログラム、インターンシッププログラムの活動報告書作成



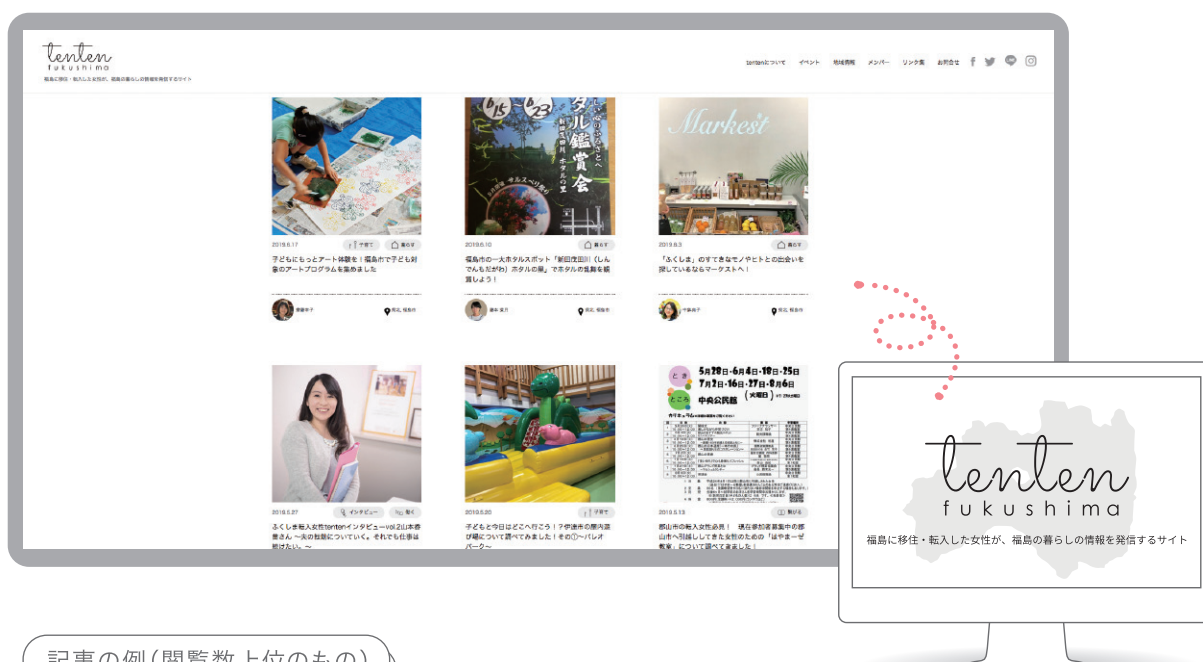
その他

- ご希望に応じてそれぞれのスキルを持った登録メンバーが対応します。
(例) ■英語→日本語翻訳、通訳 ■中国語→日本語翻訳 ■食育講座
■Illustrator、Photoshop講座

③ 暮らしの情報発信 (WEBメディアの運営)

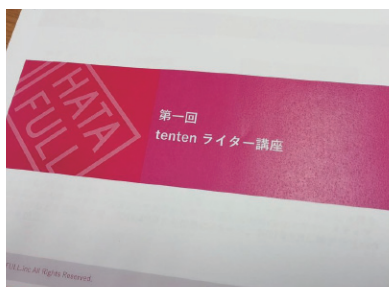
福島に移住・定住した女性が、福島の暮らしの情報を発信するWEBメディア「tenten fukushima」を平成30年10月に立ち上げ、平成31年1月より定期的に記事を更新。転入女性から独自にライター (tentenライター) を養成し、令和2年9月現在、14名のライターが交代で記事を執筆しています。観光情報ではなく転入女性目線で「自分たちが転入前に知りたかった情報」・「転入後の福島の暮らしが楽しくなる情報」・「実際に福島に転入した女性へのインタビュー」などリアルな暮らしの情報を発信しています。

tentenライターは、ライター講座でライティングの基礎的な知識を習得しtenten fukushimaでOJT(オンザジョブトレーニング)を積みます。スキルと経験を身に着けたtentenライターが外部からの仕事を受託する仕組みとなっています。



記事の例 (閲覧数上位のもの)

- 毎日の買い物はここで決まり！ 福島市の人気スーパー特集
- 妊娠中の転勤・引越しが決まった！ 出産前後の6つの工程を解説
- ～福島市内の幼稚園情報～給食は？プレスクールは？ 在園児ママの生の声を集めました！！
- 子どもと今日はどこへ行こう！？福島市の屋内遊び場について調べてみました！



ライター講座を実施して、基本的な知識を身につけてもらいます。

tentenライターの方々

団体概要

名 称 一般社団法人 tenten
所在地 〒960-8041 福島県福島市大町2-18石屋小路ビル2F
代表理事 藤本菜月
連絡先 TEL 090-3470-4708
mail info.tenten.fukushima@gmail.com
WEBサイト <https://tenten-f.info/>
<http://belfonte.info/>
設 立 2020年10月8日

藤本菜月 プロフィール

1980年石川県小松市生まれ。名古屋大学農学部の果樹園芸学ゼミで桃の葉について研究。卒業後、農林水産省で4年9か月勤務。農業改良資金、経営構造改善事業、農地法関連業務、国際協力業務等に携わる。結婚を機に退職し、福島県へ移住。福島県職員の夫についてこれまで県内4カ所(南会津町、喜多方市、須賀川市、福島市)で生活する転勤族妻であり2児の母親。趣味は書道、刻字。



コラム

地域資源を活用した雑貨bel*fonteブランドの商品は子育て中のママや転勤族の方など、定職に就き辛い方に作り手さんとして携わってもらっています。その中の一人、猫田有紀さんは全国転勤族の旦那さんをもつ女性。その時猫田さんは福島市に住んですでに7年が経過していました。妊娠・出産を機に退職していた猫田さんは、就職は難しいけど家でもできる仕事として会津木綿のピアスやイヤリングの作り手を自ら志願されました。そして、作り手をする中での気持ちの変化を打ち明けてくれました。

「自分が家庭以外の場所でも存在価値があると感じることができ、生活にハリが出ました。そして、bel*fonteや会津木綿を知って、福島の事をもっと知りたいと思うようになりました。それまで7年、福島に住んでいましたが、福島にこんなに興味を持ったことはありませんでした。」

この言葉を聞き、猫田さんのような女性をもっと増やしたい、そうすれば社会とのつながりのない女性達にとっても、福島にとってもプラスになると感じたのが今の活動の礎になっています。猫田さんは千葉県に転出された今でも年に数回福島を訪れ、福島との交流が続いています。

